

都市再生整備計画 事後評価シート  
天童北部地区

平成25年 1月

山形県天童市

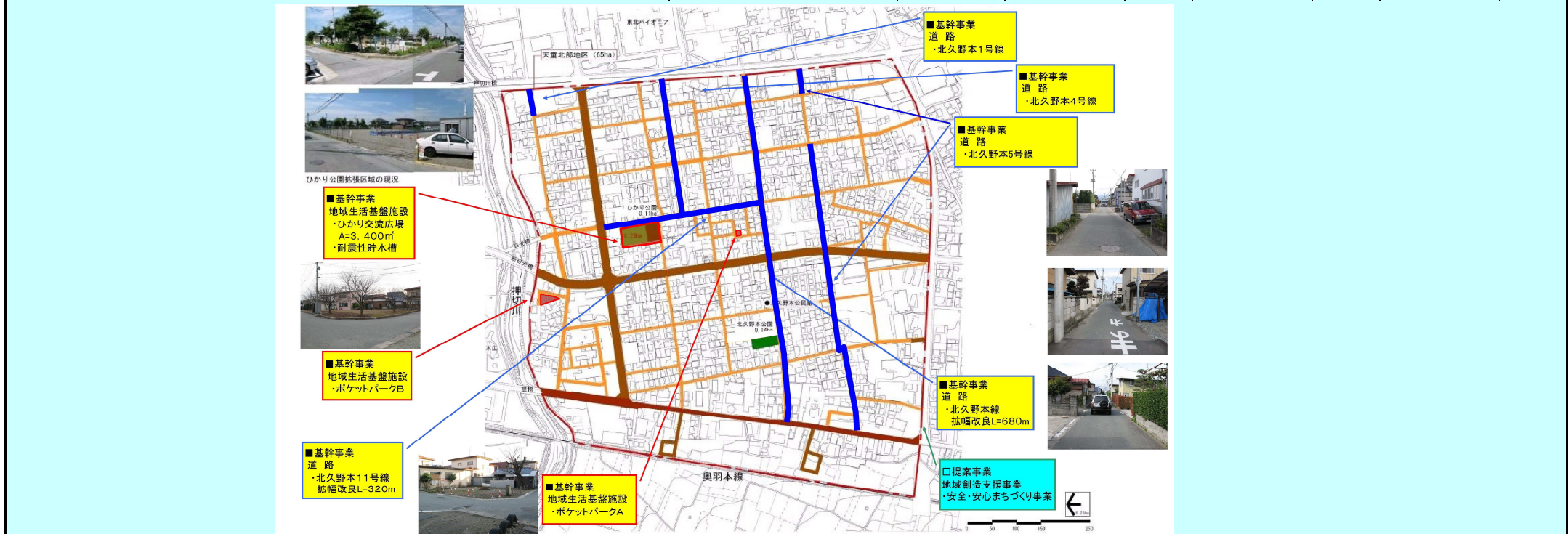
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	山形県		市町村名	天童市		地区名	天童北部		面積	65ha		
交付期間	平成20年度～平成24年度		事後評価実施時期	平成24年度		交付対象事業費	645.5百万円	国費率	0.41			
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名									
			基幹事業	道路事業(市道北久野本線)、地域生活基盤施設(ひかり交流広場・中道交流広場・耐震性貯水槽)、既存建造物活用事業(備蓄倉庫)								
	当初計画から削除した事業		提案事業	安全・安心まちづくり事業								
			事業名			削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響			
	新たに追加した事業		基幹事業	地域生活基盤施設(中道交流広場)、既存建造物活用事業(備蓄倉庫)			関係機関との調整難航による削除			指標3「一時避難可能人口率」に影響があり、整備計画書の指標目標値を変更した		
			提案事業	なし								
交付期間の変更		当初	平成20年度～平成24年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響							
		変更										
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標	単位	従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因(総合所見)		フォローアップ	
			基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み			予定時期	
	指標1	雨水排水路整備率	%	94	H16	98	H24	-	98	○	あり	平成25年4月
	指標2	災害活動可能エリア率	%	87	H16	93	H24	-	94	○	あり	平成25年4月
指標3	一時避難可能人口率	%	16	H16	37	H24	-	38	○	あり	平成25年4月	
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標	単位	従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因(総合所見)		フォローアップ	
			基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度※1	達成見込み			予定時期	
	その他の数値指標1											
	その他の数値指標2											
その他の数値指標3												
4)定性的な効果発現状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>交差点の舗装をカラー舗装にするなどで注意を促し、安全運転の意識向上に貢献した。</li> <li>地元住民の防災意識も高まり、ひかり交流広場を利用した防災訓練なども頻繁に行われるようになった。</li> <li>防災型まちづくりとして先進的事例となり、他地域からの視察や問い合わせが増え、見本となる地域として注目された。</li> </ul>											
5)実施過程の評価	実施内容					実施状況			今後の対応方針等			
	モニタリング					都市再生整備計画に記載し、実施できた						
	住民参加プロセス	・住民説明会、ワークショップの実施 ・防災まちづくり事業安全祈願祭、安全協議会の実施、安全安心まちづくり委員会の実施				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった			今後も継続した取り組みを行い、住民の意見を聞いて、よりよいまちづくりを目指していく。 また、住民の防災意識の継続出来るように、市は側面支援を行う。			
持続的なまちづくり体制の構築	・地元地住民による防災訓練				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった			これからも地元住民が継続的に防災訓練等の活動をおこなっていきけるよう、行政が側面的にバックアップして支援していく。				

## 様式2-2 地区の概要

### 天童北部地区(山形県天童市) 都市再生整備計画の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標:安全・安心の快適環境まちづくり ■区画道路及び雨水排水路の整備により、強風・豪雨等に対して不安なく生活でき、日常の生活に困ることのない「快適な日常生活の環境づくり」を図る。 ■見通しが良く利く道路網、住民の諸活動が可能な広場、災害活動等も円滑に行える道路と広場空間のネットワークの「安心して暮らせる防災の環境づくり」を図る。 ■大災害等に対しても、確実に対応できる「確かな避難の環境づくり」を図る。	雨水排水路整備率	単位: %	94	H19	98	H24	98	H24
	災害活動可能エリア率	単位: %	87	H19	93	H24	94	H24
	一時避難可能人口率	単位: %	16	H19	37	H24	38	H24



まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>雨水排水路の未整備区間の多くが整備され、安全な雨水排水網が構築されたが、残りの未整備区間については今後も継続した対応が望まれる。</li> <li>道路を拡幅改良するなどして災害活動可能エリアを広げることができ地域の防災性能の向上に繋がった。引き続き改善に向けた取り組みを行うことが必要であるが道路拡幅改良のための用地取得が困難な状況であるため、ハード整備だけでなくソフト事業も含めた対応策の検討が必要である。</li> <li>既存のひかり公園を拡張し、ひかり交流広場として整備されたことで、防災機能の強化や一時避難収容面積の増加等、安全に避難できる環境が整った。今後はさらなる一時避難可能人口の増加を目指し、地域と協力した取り組みの実施が望まれる。</li> <li>整った防災環境を活用し、地域の防災活動をこれからも継続していく必要がある。</li> <li>地域の防災に対する意識は高まっている。今後は地域住民の防災に対するモチベーションの維持、防災意識の更なる向上を図る。</li> </ul>
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>排水路の機能維持・管理(清掃等)・・・排水機能を持続させるため、地元住民活動により定期的に排水路の清掃を実施したり、定期的にパトロールを行い、破損している排水路を見つけ、修繕を行う。</li> <li>道路の機能維持・管理(清掃等)・・・道路の交通機能を持続させるため、地元住民活動により、定期的に道路のゴミ拾いを実施したり、定期的にパトロールを行い、破損している箇所を見つけ、修繕を行う。</li> <li>公園の機能維持・管理(清掃等)・・・公園の一時避難機能を持続させるため、地元住民活動により、定期的に公園のゴミ拾い及び草刈りを実施したり、定期的にパトロールを行い、破損している箇所を見つけ、修繕を行う。</li> <li>雨水排水路の整備・・・地区内の雨水排水路が未整備である路線において必要と思われる区間の整備を行い、雨水排水路を設置する。</li> <li>防災活動ソフト面の充実・・・事業の施行によりハード面の整備はある程度充実してきたので、防災マップの作成や避難訓練等による避難経路の周知徹底など、ソフト面の充実を図っていく。</li> <li>一時避難可能人口の増加・・・民間施設との連携を図り、災害時に一時避難場所として活用できるよう協定を組むなどの方策を考えていきたい。</li> </ul>